

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	満快のふる郷 さくら東苗穂 2階	評価実施年月日	平成20年10月31日
評価実施構成員氏名	三浦 昌彦 野宮 徳将 高橋 庸子 山田 梢 金一 健 佐藤 裕美 柴田 淳子		
記録者氏名	野宮 徳将	記録年月日	平成20年11月3日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の理念「六つの誓い」がある。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者・介護職員は「六つの誓い」を毎朝の申し送りで唱和。日々のケアの中で意見交換をしながら、理念実践へ向けて取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族へは入居時に説明を行い、ユニット内外に理念を掲示している。地域の人々へはさくら便りを配布しているが、アプローチは不十分である。</p>	○	<p>地域運営推進会議等、地域住民との交流の場を増やし、理念の理解へ向けて取り組んでいく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方々との明るい挨拶交換を心がけている。近隣の子どもや高齢者が立ち寄ることが多くなっている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事への参加が少ない。</p>	○	<p>町内のイベントへの参加や、さくら祭り、地域運営推進会議を開催し、地元の人々への交流に努めていく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域貢献を兼ねて、リングプル集めを行っている。また、定期発行新聞 さくら便りに介護予防のコーナーを設け、発信を行っている。</p>	○	<p>取り組みを継続していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員一同で見つめ直し、振り返り、厳しく評価した上で、改善へ向けて取り組んでいる。</p>		
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域運営推進会議の開催が少ない。</p>	○	<p>2ヶ月に一回、地域運営推進会議を開催し、サービスの向上に努める。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当との連絡は、月一回の入居状況報告のみとなっている。</p>	○	<p>地域運営推進会議を開催し、最低限2ヶ月に一回は市町村担当との意見交換の場を設ける。</p>
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学ぶ機会がなく、内容を理解している職員は少ない。</p>	○	<p>資料配布や、勉強会の開催及び各自が自主学習をしていく。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>理念実現へ向けて、ケアの在り方を一つ一つ見つめ直しながら実践しているため、虐待はない。</p>	○	<p>新入職員にも理解しやすいよう、事例を用いて定期的に勉強会を開く。</p>
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約・解約の際に詳しく説明し、理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中で意見、不満、苦情を表しやすいよう、雰囲気作りを行っている。意見や苦情が出た場合には真摯に受け止め、早急に改善を図るとともに、ケース記録や報告書を全職員に周知している。また、さくら内他事業所へも報告書の回覧を行い、運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一度、預かり金台帳や領収書の送付とともに、近況報告のお手紙を同封している。また、必要に応じて電話連絡や、来所時には口頭での報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケートを行い、意見を寄せて頂いている。また、意見や苦情が出た際には報告書を作成し、原因と対策を立て、全職員へ周知している。さくら他事業所へも報告書を回覧し、運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営グループ内で各委員会を発足し、意見の集約及び改善に向けて活動している。また、定期的に管理者との面談の機会を設け、意見の反映に努めている。	○	取り組みを継続していく。運営者が職員と面談する機会を増やすことが望まれる。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	人員の不足により、柔軟な対応ができていない。人員の確保へ向けて、職員より意見の聴衆を行っている。	○	職員の退職を想定した上で、柔軟な対応ができるよう、ゆとりのある人員配置に努める。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	委員会や役職者同士の話し合いにおいて、離職の原因を検証し、対策を立て、必要最小限になるよう防止に取り組んでいる。異動や離職があった際には、利用者の精神状態に応じ、お伝えしない、フォローする等配慮している。	○	取り組みを継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職員には研修マニュアルに沿って、個々の能力に応じたOJTを行っているが、OJTの期間が短く、伝えきれしていない事もある。定期的に外部の研修を受ける機会を設けている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や、講座への参加、管理者連絡会議などを通じて、同業者との交流がある。	○	一般職員が研修や講座へ出席する機会を増やす。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	新年会や、事業所間の交流行事を設け、楽しめる場の提供を行っている。	○	運営者へ直接意見・要望を述べる機会を増やすことが望まれる。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個々でチャレンジシートを作成し、その上で面談を行い、目標へ向けて努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の協力を得て情報収集を行い、又利用に至るまでにご本人との面談をし、本人の思いを知ることで信頼関係を築くようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にご家族と面談し、不安や疑問が軽減できるよう親身な対応に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況・家族が困っている事など、今現在何を必要としているのかを伺って、いより良い方向性をともに考えるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の情報やご本人との会話の中から得た情報を踏まえ、職員間での話しあいをし、ユニット内の環境整備等工夫することに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長年積んできた経験を活かせるよう働きかけを行い、必要時環境の整備を行う等行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	イベント時や定期的に来訪される家族については支援につき、相談・協力依頼を行っているが、来訪の少ない家族もおり一緒に本人を支えていく関係の構築に努めていく必要がある。	○	来訪頻度の少ないご家族に対してはケース記録を送付、電話連絡等行い、ご本人の様子を密に伝えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来訪した際には、ご本人とゆっくりと過ごせるよう配慮している。又行事等を企画しご家族とご本人が疎遠にならないように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方と会ったり、連絡を取り合ったり、馴染みの場所へ出かけられるよう可能な限り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の個性・特性を把握し、利用者同士の関係調整を常に行うよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用を終了されている方との交流はほとんどない。	○	暑中見舞い、年賀状を出したり、行事等があった時は案内をし足を運んでいただけるように努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との会話やケース記録・センター方式を活用し、ご本人の思いを受け止め意思の尊重をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にはご家族、ご本人との面談を行い、情報の収集を行っている。又出来る限り、入居時にご家族にセンター方式への記入を行って頂き、情報提供の協力を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式・生活チェック表を活用しご本人の状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一度の会議を行い、モニタリングし課題を検討している。ご家族の来訪時、電話の際に意向を聞き、介護計画に反映するよう作成している。	○	情報の共有を確実に計画に沿ったケアを行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間内の計画の見直しを行うようにしているが、説明までに時間がかかっている。	○	期間内に余裕をもって見直しをするよう調整する。
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録には、介護計画の実施、生活の様子や変化等記録し、情報の共有に役立てている。又必要時センター方式のシートを追加する等の工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	十分には活かしきれていない。	○	グループホーム管理者連絡会議や地域運給推進会議等で他事業所の取り組み等を参考にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防の公共部分については、協力体制を整えるよう努めている。イベント時等、近所の方等にボランティアの協力をお願いしている。	○	地域資源については現在よりも協力が得られるように連絡調整等行い密にしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス活用支援はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働はしていない。	○	必要に応じて、協働していく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医があり、状態に応じて相談している。また必要時等電話連絡をし現在の状態を事前に伝えるようにしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医がおらず、精神科や脳外科への相談をしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携の看護師へ状態に応じ随時相談を行えている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関、ご家族と連絡をとり入居者様の状況把握に努めている。得た情報を元に話しあい退院後の支援方法や環境改善に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合・終末期のあり方については出来るだけ早い段階に関係者との話し合いが十分に行われているとはいえない。	○	ご家族、ご本人、かかりつけ医と現在の状態から今後どのようにするかを見据えて話し合いを設けていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できること・できないことは明確であるが、チームとしての支援の在り方については、経験不足な面もあるため話し合いを重ねていく必要がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族、関係機関より情報を得てダメージ防止に努めている。又退居して他に移る場合は、情報提供を行い住み替えがスムーズに行えるようにしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>共同空間での声かけに配慮が必要な場面がある。記録については実名を避け記入している。</p>	○	<p>場面に応じた声掛けの配慮ルールを作り徹底していきたい。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>分かりやすい説明、自己決定のしやすい声掛けを心掛けている。</p>	○	<p>訴えない利用者の思いを引き出せるよう努めていく。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ひとりひとりにあったペースを心掛けているが、日によってこちら側の都合になってしまふことがある。</p>	○	<p>職員同士で連携をとり、1日の時間配分や配置を考慮し、一人でも多くの利用者の希望に沿うように努めたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容、美容については訪問美容を使用しているが、訪問美容は楽しみにされている。ご自分で身だしなみを整えている方もいるが、そうでない方に関してはこちらで用意がちである。</p>	○	<p>ご本人と一緒に選びながら行っていく。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事のメニューは全員同じものを提供しているが、その方にあった量や形状に変えて提供している。食事準備や片付けについては出来る方には負担にならないようにしている。</p>	○	<p>現在より好みの味付けや、健康に配慮した食事を提供していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在喫煙される方はいないが、受動喫煙、防災の事もあり喫煙場所を決めている。飲み物、おやつ等に関しては健康に配慮し提供するよう心掛けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	リハビリパンツ、パットを使用している方もいるが排泄パターンを把握できるように、生活チェック・水分排泄チェック表を活用し声掛けにてトイレでの排泄できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の要望にお応えして対応している、自らの訴えが無い方に関しては定期的に入浴できるように心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入浴等でリラックスをはかれるようにしたり、眠れないときはホットミルクや軽食等を提供し安眠を促している。ご自分で動けない方に関しては座りっぱなしにならないよう時にベットでの休息をとれるようにしている。S		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割や、楽しみを持って過ごしている方もいるが、役割や楽しみを持っている方が少ない。気晴らしの支援としては、外出、買い物等にお誘いし支援している。	○	生活歴からそのかたの興味が持てること等をさぐり環境を整える。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人ができる範囲内で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出する方に偏りがある。又外出の頻度としては少ない。	○	時間の配分や人員配置を計画的に行うように努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	現在は行えていない。	○	企画をたてて実施していくように努めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には随時支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来訪して頂けるよう説明している。来訪の際は、近況報告、飲み物をお持ちする以外の訪室を避け、ゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束をせず、利用者の安心・安全が守られる方法を考え実践しているが、まだまだ学習が必要である。	○	全体会議等で定期的に皆での学習の場を作り実施していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯の上、夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中は鍵を掛けず、自由に入出入りされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間での声掛けやリビング内には必ず職員が待機し、利用者の所在確認・安全の配慮を心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	誤飲や異食の危険のある方に関してはこちらで管理をさせていただいている。物によっては利用者の目の届かない所に保管し事故防止に取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やひやりはと報告があった場合は、その月のカンファレンスで話し合いを行い、職員間での共通した事故防止策に取り組んでいる。	○	組織的な最低限まもらなければならないルール、リスクマネジメントの学習の開催を行っていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	すべての職員が完全に行える状態ではない。	○	防災協会や消防に協力を仰ぎ、定期的な救急法について訓練を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練を実施しているが、職員の入れ替え等もあり完全に行えるか不安がある。	○	防災マニュアルを防火管理者、消防と協力し細かなマニュアルの作成をし周知徹底を行う。 地域住民へは町内の防災訓練の参加や勉強会等を企画し連携できるようにしていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	介護計画の説明時や随時ご家族への相談・報告をし本人にとって何が1番良いのか話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行っており、身体状況の変化も日々観察している。夜間帯も巡回を定期的に行い、異変の早期発見に努めている。対応や、対策については申し送りや、連絡ノートを使用し職員間で情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用等は、医師、看護師より説明があり、連絡ノート、申し送り時に職員へ周知している。症状の変化についてもケース記録、申し送りで周知している。	○	要注意な薬等、薬に対しての知識の勉強会を行う。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品(牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等)果物、青野菜等を提供するよう心掛けている。朝食後のトイレの習慣をつけて頂くようにトイレ誘導を行っている。	○	軽い体操の実施。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の状態に合わせて対応し、磨き残しがある方はこちらで介助させていただいている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック、生活チェック表に記入し、適切な水分・食事量を提供するようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	インフルエンザ予防接種は、入居者・職員とも実施している。感染症に関しては浴室・キッチン等に表示し知識を深めるようにしている。	○	感染症についての学習を定期的に行うようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品については表示にしたがい保存し調理具等は夜間漂白、消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	閉鎖的な作りではなく、玄関、建物周辺には花壇を作り親しみやすく工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	置物の整理整頓が必要。不快な音はなくカーテン等で光の調節に気を配っている。	○	サロン等の整理をし常時置物等整理がされているようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや食卓等利用者同士での団らんのある場はあるが、共用空間での一人になれる場所がない。(整理されていない)	○	整理し落ち着いて過ごせるような環境を整える。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、なるべく使い慣れた物や好みのもを持ってきて頂き、少しでも居心地のよい生活となるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	暖房の温度調整、換気をこまめに行い、体調管理に努めている。空気清浄機をしようしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・トイレ等の手すりは平均身長に合わせて取り付けをしている。</p>	○	<p>居室内のベットや家具のは配置を身体状況や、危険がないか定期的な見直しを行うよう管理していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>出来ることへの見極め、一つ一つの動作に対して分かりやすく、動作を交えながら伝えるようにしている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場はベンチイス等の設置を行い畑での活動や日光浴ができるようにしている。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ③
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	③

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
利用者も職員も笑顔あるユニットであるように努めている。